

令和2年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果について

宮城県教育委員会

1 実施状況

(1) 調査の目的

宮城県（仙台市を除く）の児童生徒における震災の影響と学習・生活に係る取組や意識等を調査することにより、児童生徒の心のケアと一層の学力向上を図る教育施策の企画・立案に活用する。また、各学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの充実を図る。

(2) 調査実施期日

令和2年8月31日（月）から令和2年9月4日（金）までの期間で学校事情に合わせた任意の日

※新型コロナウイルスによる臨時休業に伴い、予定より約2か月遅れで実施。

(3) 調査対象者（仙台市を除く）

対象 ^(*1)	調査事項	実施校	参加児童生徒数
小学校5年生の全児童	生活習慣	253校	10,041人
中学校1年生の全生徒 ^(*2)	学習習慣	137校	10,391人
学校	児童生徒への関わり方 指導方法	上記の全小・中学校	

*1 義務教育学校，特別支援学校を含む。

*2 中学校においては，平成26年度から28年度までは中学校2年生を対象に実施。

2 調査結果の概況 (ページ番号は「別冊 令和2年度宮城県児童生徒学習意識等調査結果」のページ)

(1) 「学力向上に向けた5つの提言」と関連する事項

<参考>学力向上に向けた5つの提言

- 1** どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。
- 2** 子供をほめること、認めること。
- 3** 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4** 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5** 家庭学習の時間を確保すること。

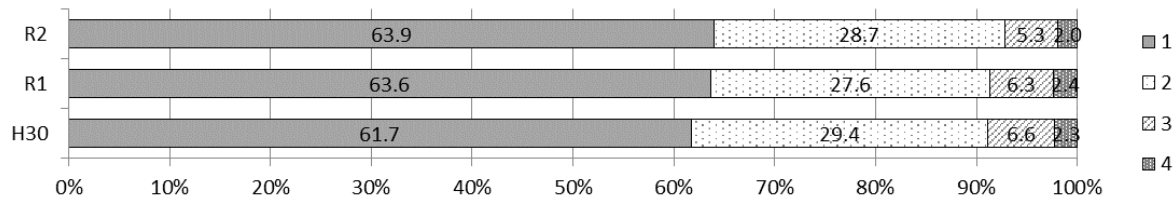
〔改善傾向が見られるもの〕

- 「先生はあなたの話を聞いてくれますか」と「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という質問に、肯定的な回答(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計)をしている児童生徒は、年々緩やかに増加している。
- 各学校が指導案に「5つの提言」を明記したり、リーフレット「学力向上に向けた5つの提言－理解 継続 自校化－」(令和元年度改訂版発行)を活用したりするなど、「5つの提言」の実践化が図られてきた成果が見える。(P1～P5)

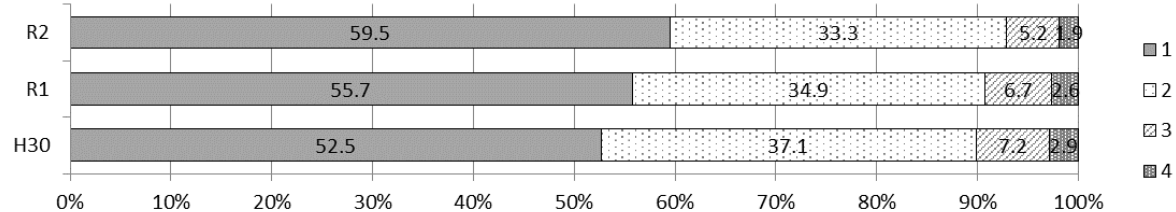
質問事項2 「先生はあなたの話を聞いてくれますか」

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかといえば当てはまる
3：どちらかといえば当てはまらない 4：当てはまらない

《小学校5年生》

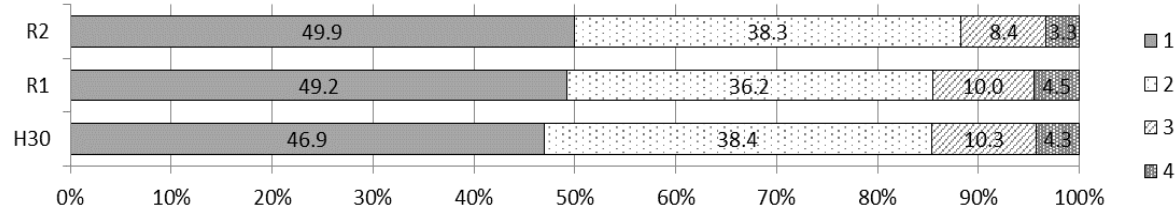


《中学校1年生》

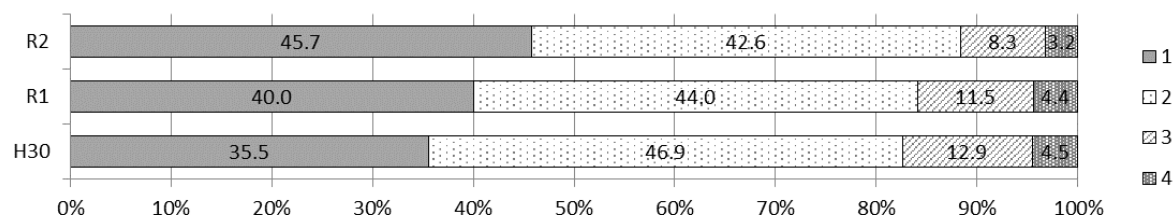


質問事項3 「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」

《小学校5年生》



《中学校1年生》



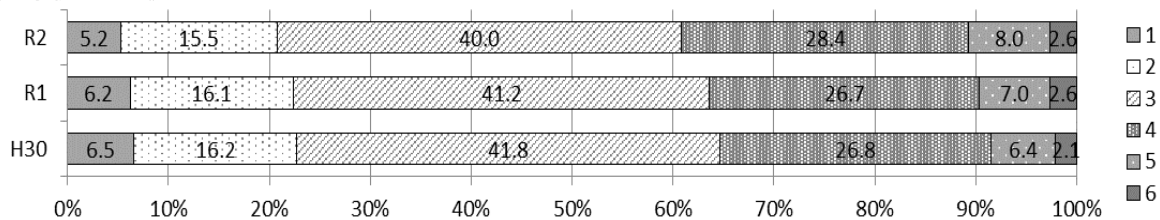
〔課題が見られるもの〕

△ 「学校の授業時間以外に、平日、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか」という質問に対して、児童生徒の学習時間が年々減少している。(P4)

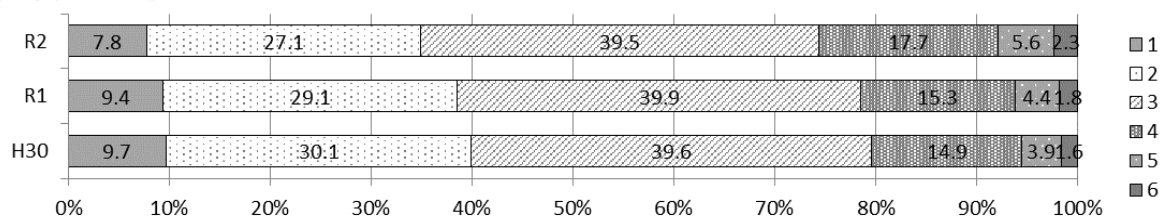
質問事項9 「学校の授業時間以外に、平日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾や家庭教師を含む)」 思いますか」

《選択肢》 1：3時間以上 2：2時間以上3時間未満 3：1時間以上2時間未満
4：30分以上1時間未満 5：30分未満 6：全くしない

《小学校5年生》



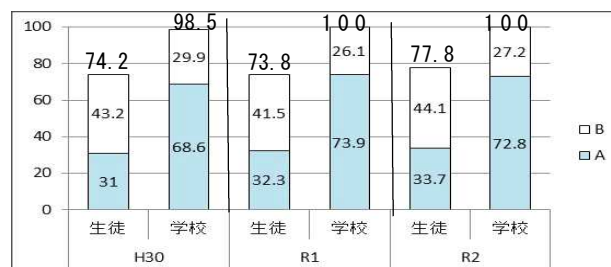
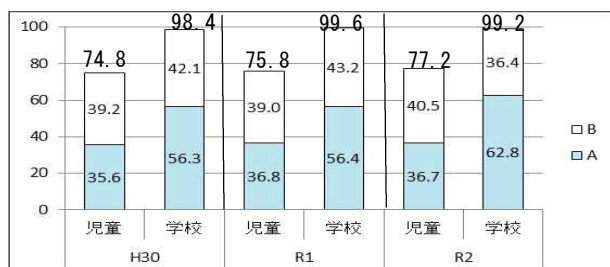
《中学校1年生》



〔児童生徒と学校の認識にかい離が見られるもの〕

- △ 学校回答では、「児童生徒に積極的に声を掛け、励ましている」「よい点や可能性を見付け評価している」が肯定的な回答はほぼ100%であるが、「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」という質問に対して77%程度、「先生は良いところを認めてくれていると思いますか」は88%程度にとどまっている。
- △ 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」の質問で「A当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、学校回答と小学校で2割5分程度、中学校で4割程度の大きなかい離が見られる。
- △ 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」という質問に対して、肯定的な学校回答は95%を超えているのに対して、児童生徒は75%程度にとどまっており、かい離が見られる。(P1～P5)
*肯定的な回答:「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計

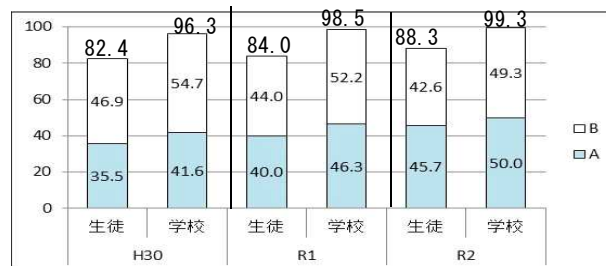
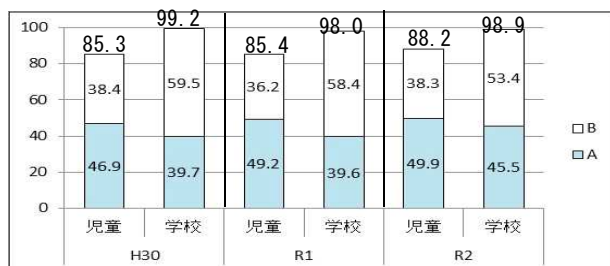
質問事項1 (児童生徒) 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」
(学校) 「児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか」
《小学校5年生》 《中学校1年生》



※ A: 当てはまる B: どちらかといえば当てはまる

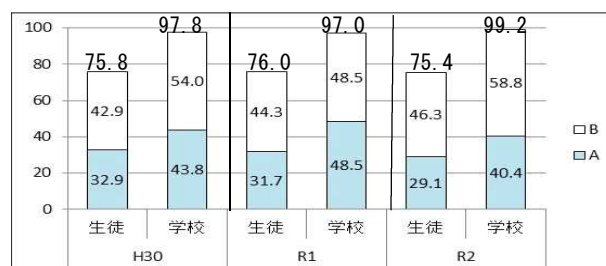
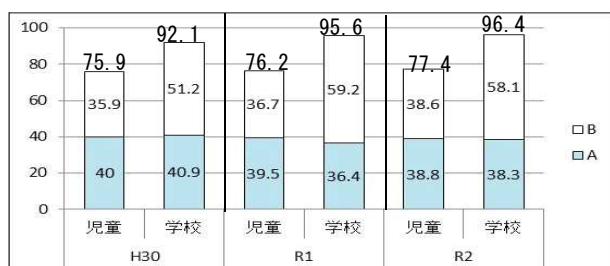
質問事項3 (児童生徒) 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」
(学校) 「学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか」

《小学校5年生》 《中学校1年生》



※ A: 当てはまる B: どちらかといえば当てはまる

質問事項5 (児童生徒) 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」
(学校) 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか」
《小学校5年生》 《中学校1年生》



※ A: 当てはまる B: どちらかといえば当てはまる

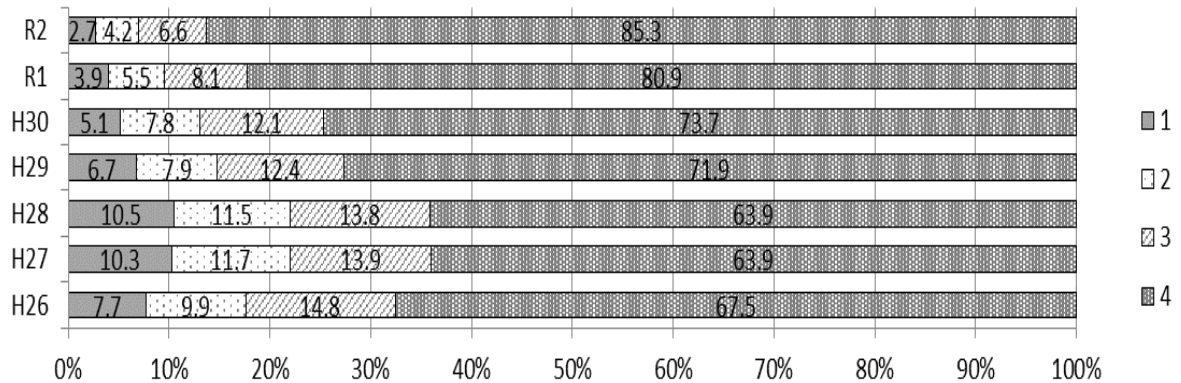
(2) 震災の影響と関連する事項

○ 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している小5は約7%、中1は約4%であり、年々減少しているものの、未だに震災の影響が見られる。(P6, P7)

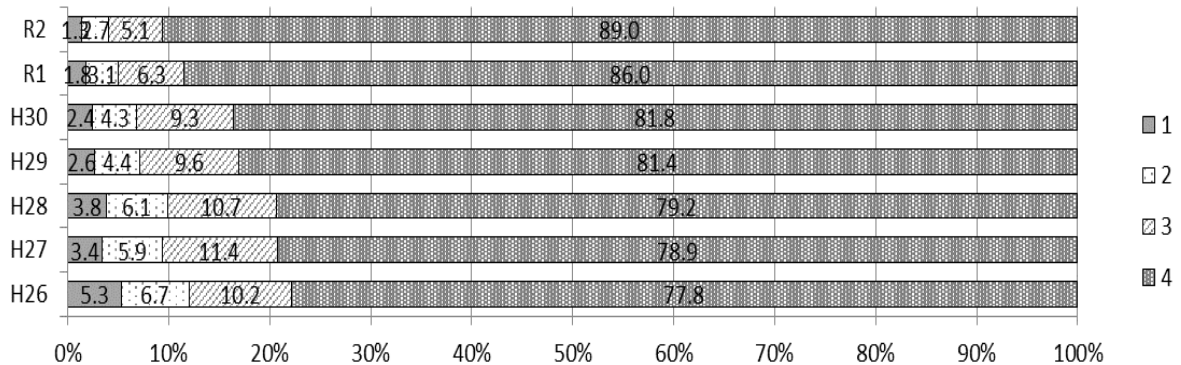
質問事項 13 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」

《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかといえば当てはまる
3：どちらかといえば当てはまらない 4：当てはまらない

《小学校5年生》



《中学校1年生》(平成26年から28年は2年生)



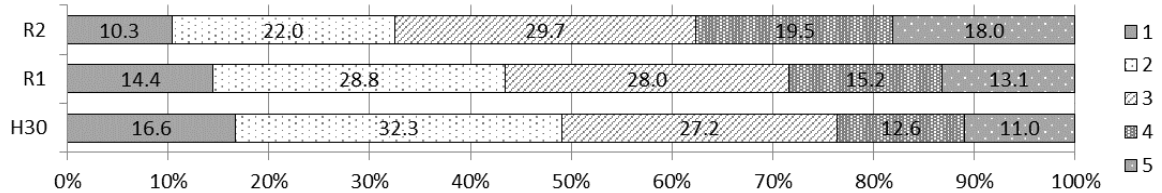
(3) 基本的な生活習慣と関連する事項

△ 「平日に1時間以上テレビゲームをしている」と回答している割合は年々上昇し、小5中1ともに約7割となっている。また、「3時間以上」と回答した児童生徒の割合は、2割近くに達している。(P10～ P12)

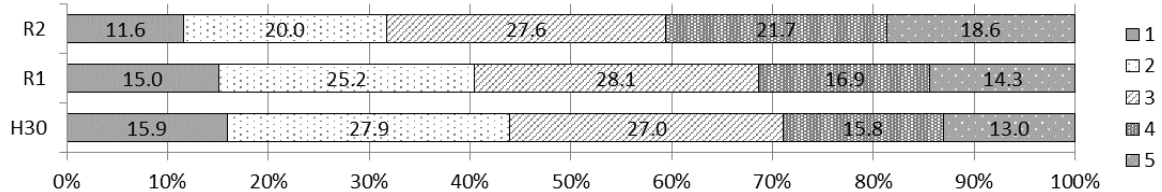
質問事項22 「平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」

《選択肢》 1：全くしない 2：1時間未満 3：1時間以上2時間未満
4：2時間以上3時間未満 5：3時間以上

《小学校5年生》



《中学校1年生》



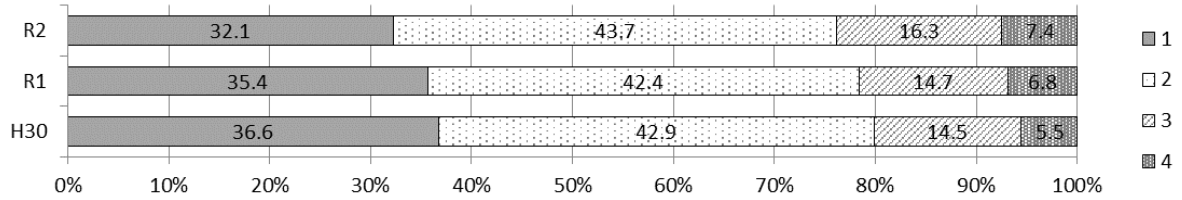
(4) 自尊意識・規範意識と関連する事項

- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問への肯定的な回答をしている児童生徒は95%程度である。(P13～16)
- △ 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒は、昨年度よりやや減少し、75%程度である。

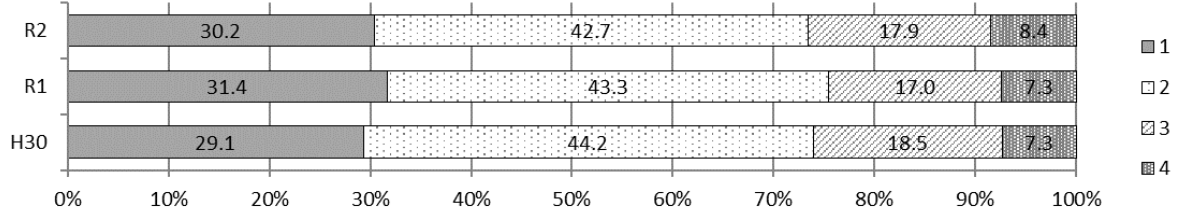
《選択肢》 1：当てはまる 2：どちらかといえば当てはまる
3：どちらかといえば当てはまらない 4：当てはまらない

質問事項 2 6 「自分にはよいところがあると思いますか」

《小学校 5 年生》

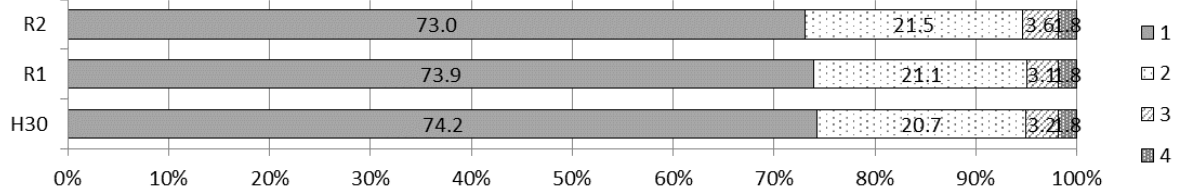


《中学校 1 年生》

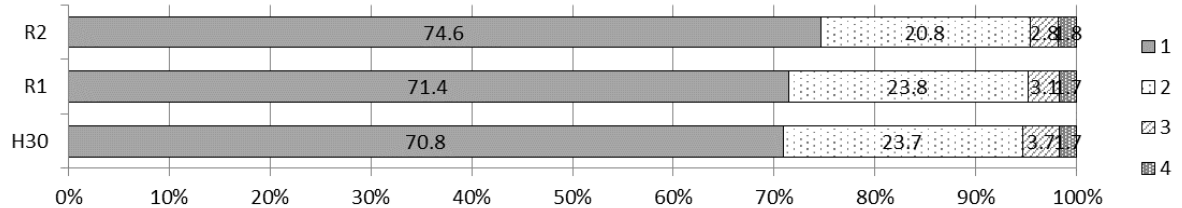


質問事項 2 9 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

《小学校 5 年生》



《中学校 1 年生》

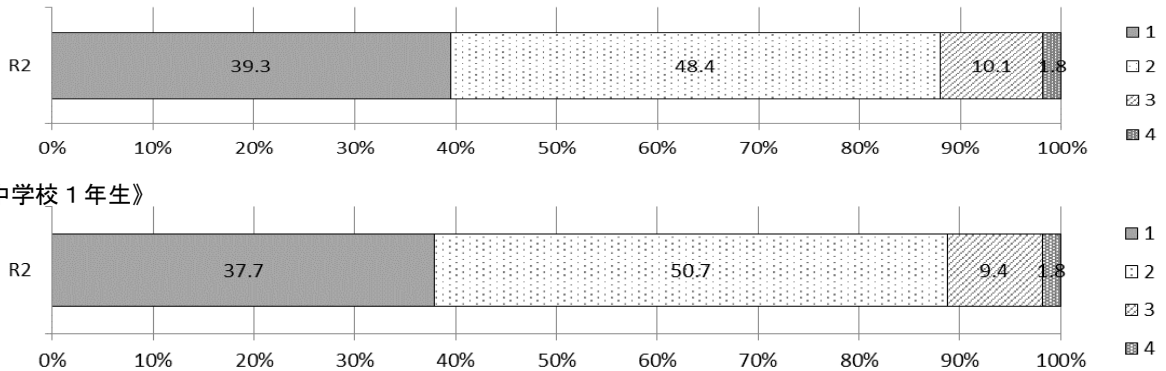


(5) ボランティア活動等と関連する事項

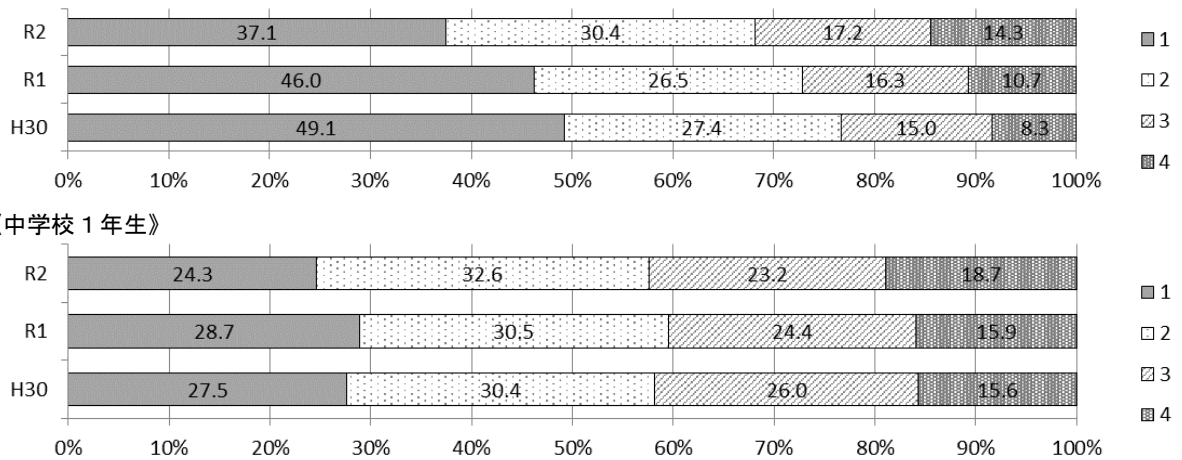
- 「人が困っているときは進んで助けていますか」という質問に肯定的な回答をしている児童生徒は、9割程度である。
- △ 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問には、肯定的な回答は減少傾向にある。

《選択肢》 1：している 2：どちらかといえばしている
3：どちらかといえばしていない 4：していない

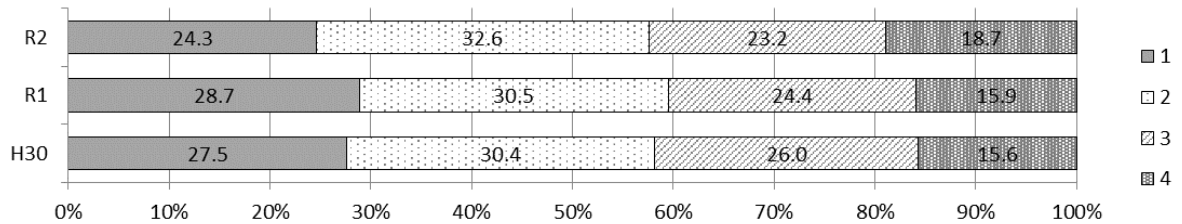
質問事項 3 3 「人が困っているときは進んで助けていますか」 ※今年度より新設
《小学校 5 年生》



質問事項 3 4 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
《小学校 5 年生》



《中学校 1 年生》



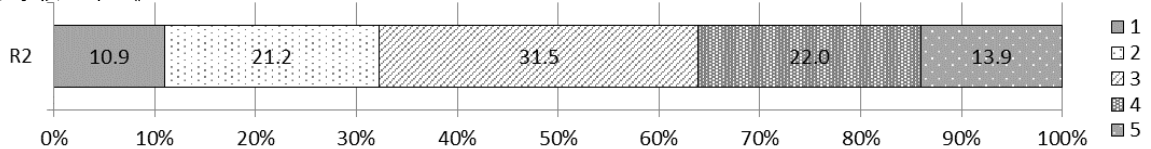
(6) ICT機器の活用と関連する事項

- 「授業でもっとコンピュータなどのICT機器を活用したいと思いますか」という質問には、小5、中1ともに、「そう思う」が最も多く、肯定的な回答は85%程度である。
- △ 「コンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」という質問に、小5、中1ともに、「ほぼ毎日」「週1回以上」の合計は3割程度である。

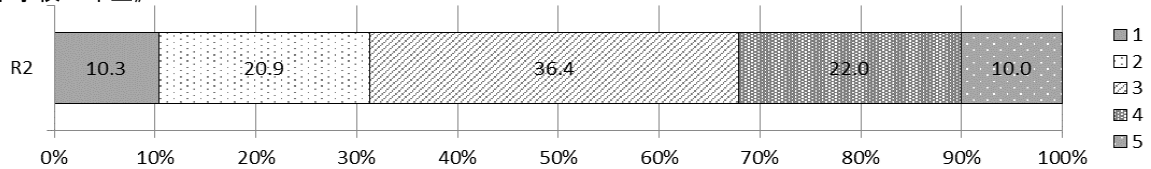
質問事項36 「コンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」 ※今年度より新設

《選択肢》 1：ほぼ毎日 2：週1回以上 3：月1回以上 4：月1回未満 5：その他

《小学校5年生》



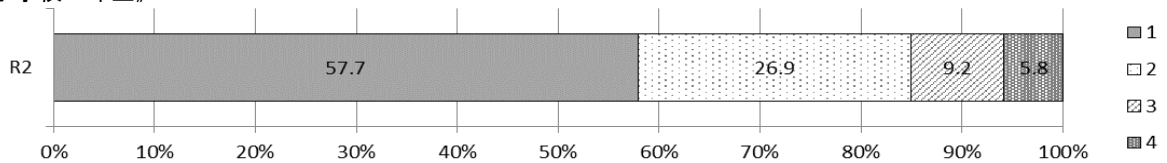
《中学校1年生》



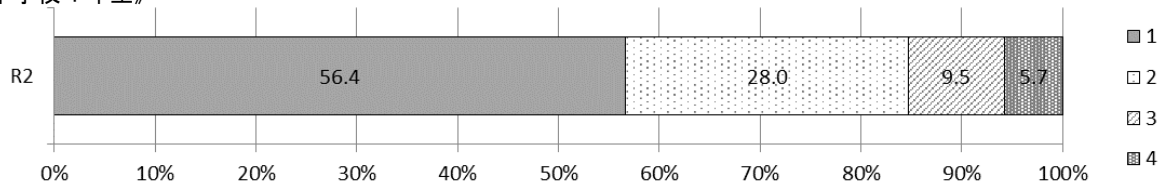
質問事項37 「授業でもっとコンピュータなどのICT機器活用したいと思いますか」 ※今年度より新設

《選択肢》 1：そう思う 2：どちらかといえばそう思う
3：どちらかといえばそう思わない 4：そう思わない

《小学校5年生》



《中学校1年生》



(7) 新型コロナウイルス感染症と関連する事項

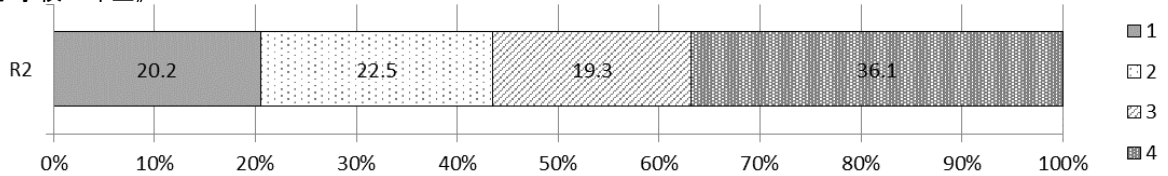
○ 「新型コロナウイルスによる臨時休業のとき、一番心配だったことを選んでください」という質問に、小5は家族のことが3割を超えて最も多く、中1は勉強のことが4割を超えて最も多い。小・中学校で異なる結果となった。

質問事項38 「新型コロナウイルスによる臨時休業のとき、一番心配だったことを選んでください」

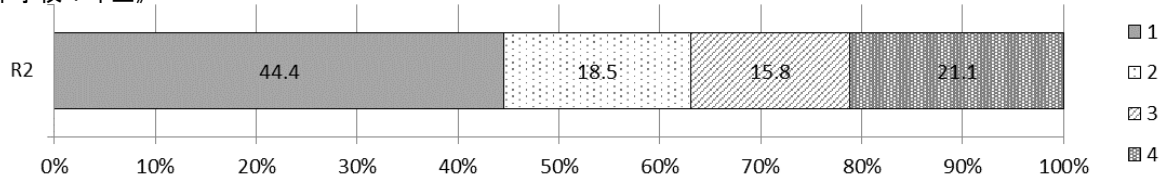
※今年度より新設

《選択肢》 1：勉強のこと 2：友達のこと 3：自分が感染すること 4：家族のこと

《小学校5年生》



《中学校1年生》



3 課題や意識したいこと

(1) 「学力向上に向けた5つの提言」における認識の乖離を解消すること

①提言1

質問 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか」(児童生徒)
 「児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか」(学校)

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)

	児童生徒	学校
小5	77.2	99.2
中1	77.8	100

②提言3

質問 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」
 (児童生徒)
 「授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると感じていると
 思いますか」(学校)

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)

	児童生徒	学校
小5	77.4	96.4
中1	75.4	99.2

- ・20%以上の児童生徒が、教師からの声掛けや励ましを受けていないと感じている現状を受け止め、児童生徒一人一人が実感できる声掛けや励ましが求められる。
- ・学習内容の振り返りについては、授業内で確実に時間を確保するとともに、児童生徒が授業での学びを実感できるよう質の向上が求められる。

(2) 望ましい生活習慣を確立すること

①「1時間以上テレビゲームをしている」児童生徒が増加傾向にある。

質問 「平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯
 式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」

※「1時間以上」と回答した割合 (%)

	H30	R1	R2
小5	50.8	56.3	67.2
中1	55.8	59.3	67.9

- ・家庭内でのテレビゲームの使い方のルールを設けるなどして、節度ある使い方を指導していく必要がある。

(3) 震災の影響を今後も注視すること
 ①児童生徒が震災の影響を感じている。

質問「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」
 ※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)

	児童生徒
小5	7.0
中1	4.0

- ・年々減少傾向にあるものの、これまでと同様、児童生徒の様子を細やかに観察し、心のケアに努めていく。

(4) ICT機器を積極的に活用すること

①授業でコンピュータなどのICT機器の活用が少ないのに対して、児童生徒はもっと授業で活用したいと思っている。

質問「授業でもっとICT機器を活用したいと思いますか」

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計 (%)

	児童生徒
小5	84.6
中1	84.4

- ・今後は「GIGAスクール構想」に係る1人1台端末が整備されることで、授業での活用がより進むよう、ICT機器の積極的な活用を推進していく。

(5) 臨時休業中の学習支援や心のケアを工夫すること

①臨時休業中、心配だったことが小学校と中学校で異なる。

質問「新型コロナウイルスによる臨時休業のとき、一番心配だったことを選んでください」

	勉強のこと	友達のこと	自分が感染すること	家族のこと	(%)
小5	20.2	22.5	19.3	36.1	
中1	44.4	18.5	15.8	21.1	

- ・小学校では家族のこと、中学校では勉強のことを一番心配している実態を踏まえ、児童生徒の不安を解消するために、オンライン等を活用し、心のケアや学習支援を行っていく。

4 今後の対応

(1) 学力向上に向けた授業改善等

- 各研修会等の機会を捉え、「学力向上に向けた5つの提言」を設定した経緯やねらいなどをもう一度確認するとともに、学校現場での実践の充実を促進する。
- 県指定の学力向上研究指定校の成果を公開研究会等において域内に広く発信するとともに、指導主事学校訪問等を通して確かな協働による授業づくりを促進する。
- 県と市町村教育委員会が連携し、学力向上の自立的なPDCAサイクルの確立を目指す「学力向上マネジメント支援事業」の成果等について、研修会等で広く発信していく。
- ICT機器を授業で積極的に活用するとともに、家庭学習にも活用が図られるよう、モラル教育と併せて指導の充実を図る。
- ゲーム機やスマートフォン等の望ましい使用の在り方について、各学校や家庭における話し合いを促していく。

(2) 志教育の推進

「志教育支援事業」の充実

- 児童生徒が、将来社会人、職業人として自立する上で必要な能力や態度を育てるとともに、主体的に学ぶ意欲を高めるため、志教育を推進していく。
- 「志教育支援事業」では、推進地区を指定し、その成果を発信する。また、「みやぎの先人集『未来への架け橋』」の活用事例なども発表し、生き方について考える機会とする。

(3) 「行きたくなる学校づくり」の推進

- みやぎ「行きたくなる学校づくり」推進事業の推進及びみやぎ「行きたくなる学校づくり」研修会を開催し、行きたくなる学校をつくる観点から校内の取組を見直し、改善を図るための手法の普及に努めていく。

(4) 心のケアの充実

みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業の推進

- 不登校や不登校傾向及びいじめ等により、学校生活に困難を抱えている児童生徒の学校復帰を含めた社会的自立を目的として市町村が行う体制整備を支援していく。

教育相談体制の充実

- 県内全ての小・中学校にスクールカウンセラーを配置・派遣するほか、各学校においてスクールソーシャルワーカーや心のケア支援員、児童生徒の心のサポート班等の活用を図るとともに、教職員の生徒指導や教育相談に関する専門的・実践的な研修を実施し、教育相談体制の充実を図る。